

## 第 2 期朝来市創生総合戦略の計画期間変更に伴う評価指標の目標値の考え方

No.	指標の性質	計画期間変更に伴う 目標値 (R7) の考え方	左記の理由	備考
1	常にその状態以上の状況の維持を目指す	目標値を変更しない。	現時点の達成・未達成に関わらず、その状態を目指す数値のため変更しない。	
2	年々増加を目指す	策定時の増加の考え方を踏襲し、目標値を上方修正する。	総合戦略の計画期間を1年間延長することは、策定時の考え方（戦略の内容や指標の傾き）は変わらないため、策定時の考え方を踏襲する。	現時点の達成・未達成に関わらず、検証時に正確な検証を行うため統一的な考え方とする。ただし、現時点で目標値に達成しているものはさらに増加を目指すこととする。
3	計画初年度から終了年度（令和6年度）までの累計	策定時の増加の考え方を踏襲し、1年分を上乘せした目標値に上方修正する。		
4	分野別計画で用いている指標を総合戦略の指標として使用	令和4年度末時点の分野別計画の目標値の考え方にあわせる。	分野別計画との整合性を図る。	令和2年度以降に策定作業を行っている計画はコロナ禍やその他状況を考慮したものであるため、検証時には、当初設定していた目標値も照らし合わせながら、コロナ以外の要因有無も踏まえて行う。
5	総合戦略策定時は独自指標であったが、総合戦略策定以降に新たに策定・改訂された総合計画や分野別計画等の指標として使用	総合計画や分野別計画の目標値の考え方にあわせる。	総合計画や分野別計画との整合性を図る。	
6	策定時に設定していた指標から総合計画で用いている指標に変更	総合計画の目標値の考え方にあわせる。	総合計画との整合性を図る。	

※第2期朝来市創生総合戦略の指標は、アクションプランごとに事業計画指標として「成果指標」と「成果達成に向けた活動指標」を設定している。また、アクションプランの「成果指標」の中かから数点の指標を基本目標における重要評価指標として位置付けている。